

資料展 自由律俳人

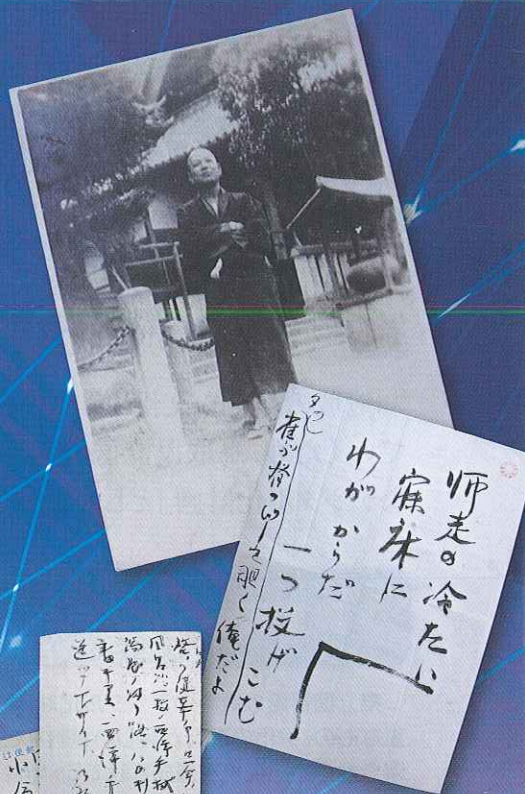
尾崎放哉のすがた

デジタル化資料の活用にもむけて

この展示では、鳥取県を代表する自由律俳人・尾崎放哉に関する書簡や写真を原資料とデジタル化資料で紹介します。

また、今年度デジタル化した資料の高精細画像や、デジタル化資料の魅力や活用方法をお楽しみください。

(資料は鳥取県立図書館所蔵)



尾崎 放哉 自由律俳人

明治18(1885)年1月20日生、大正15(1926)年4月7日没。鳥取県吉方町(現在の鳥取市吉方町)に生まれる。本名秀雄。

自由律俳句の最も著名な俳人のひとり。

鳥取一中(現在の鳥取西高校)入学頃より句作を始め、校友会雑誌『鳥城』への投稿を行う。第一高等学校、東京帝国大学とエリートコースを歩みながらも、大正12(1923)年からは仕事も家族も捨てて各地を転々とするが、小豆島の南郷庵で没する。この間に発表された作品は多くの人の心をとらえ、熱烈なファンが多い。

終焉の地である小豆島には、「尾崎放哉記念館」がある。

【代表句】「咳をしても一人」「入れものが無い両手で受ける」

2019年1月19日(土) → 2月3日(日)

開館時間 火～金/午前9時～午後7時 土・日・祝日/午前10時～午後6時
【休館日】1月21日(月)、1月28日(月)、1月31日(木)

米子市立図書館2階 市民ギャラリー

米子市中町8 (電話0859-22-2612)

ギャラリートーク 1月20日(日) 午前11時～、午後2時～(各回1時間程度)



デジタル化って何でしょうか？

どんな使い方ができるのでしょうか？

便利なのでしょうか？

総合的なデジタル化計画

地域の歴史や文化に関する資料をいつでも誰でも容易に利用できる環境を整え、次世代に伝え残していくため、鳥取県立図書館が有する資料のデジタル化の方法や資料の提供のあり方などを「総合的なデジタル化計画」としてまとめました。詳しくは、県立図書館ホームページをご覧ください。

貴重資料の保存

県立図書館の資料のデジタル化は、貴重なもの、劣化の進行が著しい資料など緊急性の高い資料を優先させて5ヶ年計画で行い、2020年年度にはデジタルアーカイブシステムを公開する予定です。

各機関との連携

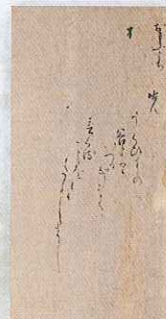
今後は、県立公文書館、県立博物館、市町村立図書館、大学図書館などと連携し、各機関の所蔵するデジタル化資料も横断的に検索できるシステムを構築する予定です。あわせて、このシステムに県民の方も参加できるようにしていきます。

誰でも活用

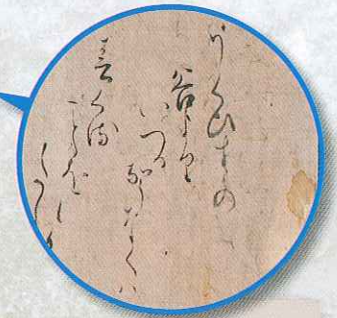
デジタル化が進めば、いつでも誰でもどこからでも、資料を利用することができます。学校教育、観光、ビジネスの場でも活用してもらえる機会が増え、地域の再認識や活性化に利用してもらえるのではないかと期待しています。



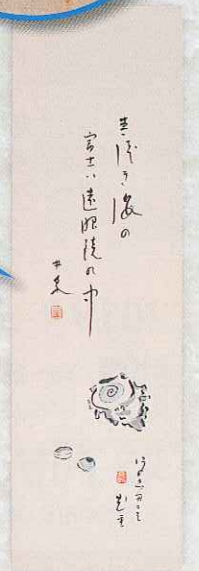
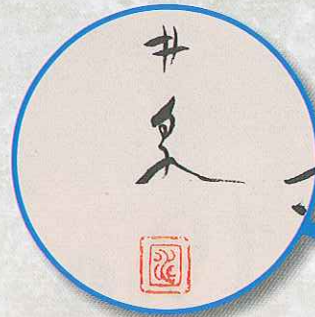
「星取県」に関係？
岡田機外の撰句集
(昭和19年刊)



池田光仲(初代鳥取藩主)の和歌も
高精細画像で筆の動きがわかる



池田慶徳(12代鳥取藩主)の大きな掛軸(縦180cm)も簡単に閲覧



萩原井泉水(自由律俳誌「層雲」主宰)の落款を見る



「鍾馗図」(沖一峨筆)の髭や頭髪の描写がわかる



米子に関する資料を探す
「鷲見休明書」(米子組士)